

最近の管内経済概況

(2023年1月の経済指標を中心として)

～ 持ち直しの動きがみられる ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、弱い動きとなっている。
- 個人消費は、持ち直している。
- 観光は、緩やかに改善している。
- 公共工事は、減少した。
- 住宅建設は、持ち直しの動きに弱さがみられる。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、緩やかに持ち直しの動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも増加した。

全体として、管内経済は、持ち直しの動きがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2023年3月16日

照会先：経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：bzl-hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L：https://www.hkd.meti.go.jp

管内経済概況判断の推移

(2023年3月現在)

発表月	2022年10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月	前月との判断比較
総括判断	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きがみられる(↗)	
生産活動	弱含みとなっている	弱含みとなっている	弱含みとなっている	弱い動きとなっている(↘)	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる(↗)	緩やかに持ち直している(↗)	緩やかに持ち直している	持ち直している(↗)	
観光	持ち直している	持ち直している	緩やかに改善している(↗)	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	
公共工事	減少した(↘)	増加した(↗)	減少した(↘)	減少した	減少した	減少した	
住宅建設	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる(↘)	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	緩やかに持ち直しの動きがみられる(↗)	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる	
企業倒産	件数は増加、負債総額は減少した	件数は増加、負債総額は減少した	件数、負債総額とも増加した	件数は減少、負債総額は増加した	件数、負債総額とも増加した	件数、負債総額とも増加した	

注：下線部は、前月から判断を変更した部分。

上方修正 据え置き 下方修正

生産活動 ～ 弱い動きとなっている ～

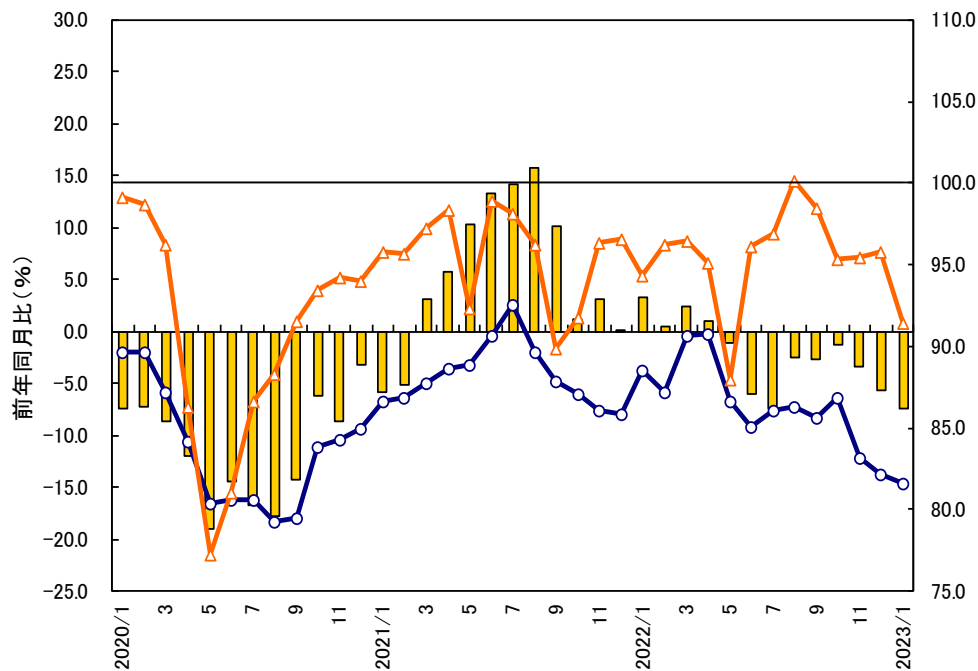
1月の鉱工業生産は、前月比▲0.6%と3か月連続で低下した。前年同月比は▲7.5%と9か月連続で低下した。低下業種は、一般機械工業など6業種となった。上昇業種は、化学・石油石炭製品工業など8業種となった。

< 1月 >
季節調整済指数

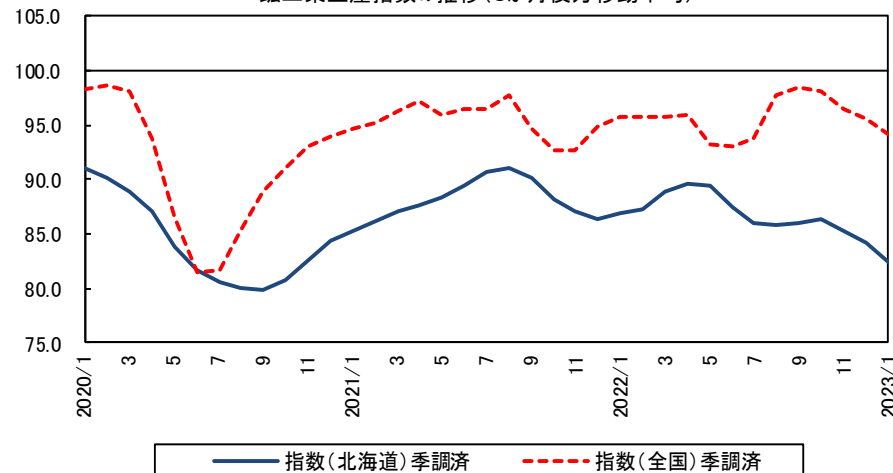
北海道 (速報)	81.6 (前月比▲ 0.6%)
全国 (速報)	91.4 (前月比▲ 4.6%)

	業 種	前月比 (%)	前年同月比 (%)	主な品目
低下 6業種	一般機械工業	▲ 29.2	▲ 15.0	一般機械
	輸送機械工業	▲ 10.9	▲ 19.8	自動車部品
	電気機械工業	▲ 7.7	▲ 9.3	電子部品
上昇 8業種	化学・石油石炭製品工業	+ 12.3	▲ 3.2	化学・石油石炭製品

鉱工業生産指数 (2015年=100.0)



鉱工業生産指数の推移(3か月後方移動平均)



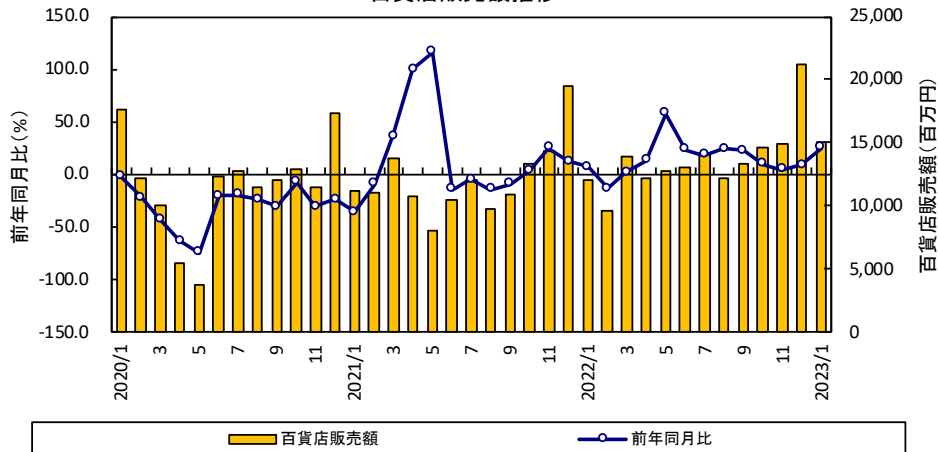
(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

個人消費 ～ 持ち直している ～

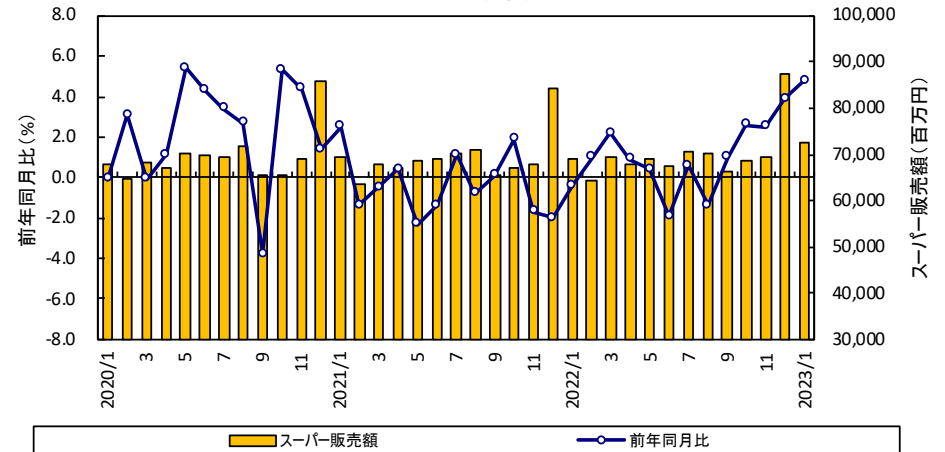
1月の個人消費は、ホームセンターは前年を下回ったものの、他の6業態は前年を上回った。

- 百貨店は、全体的に売上げが好調で、前年同月比+25.0%と11か月連続で前年を上回った。
- スーパーは、衣料品などの売上げが好調なほか、飲食料品は全体的に値上げの影響もあり売上げが増加し、同+4.8%と5か月連続で前年を上回った。
- コンビニエンスストアは、同+5.7%と15か月連続で前年を上回った。

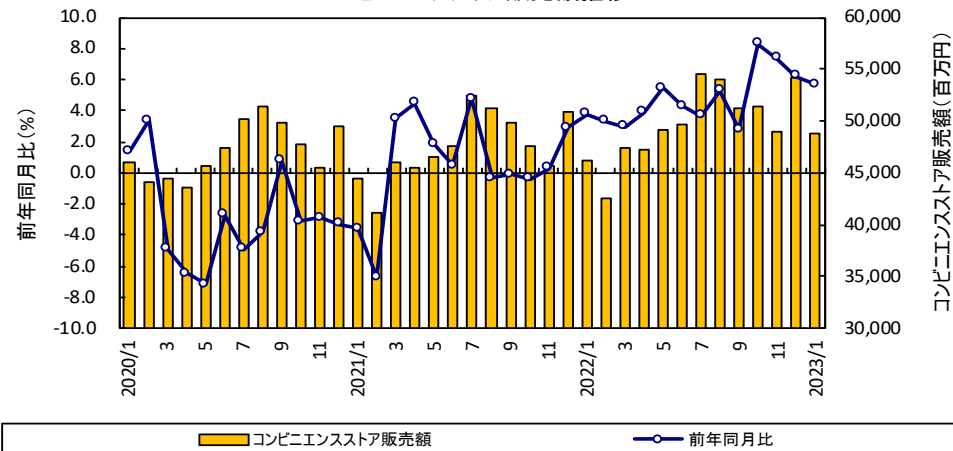
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移



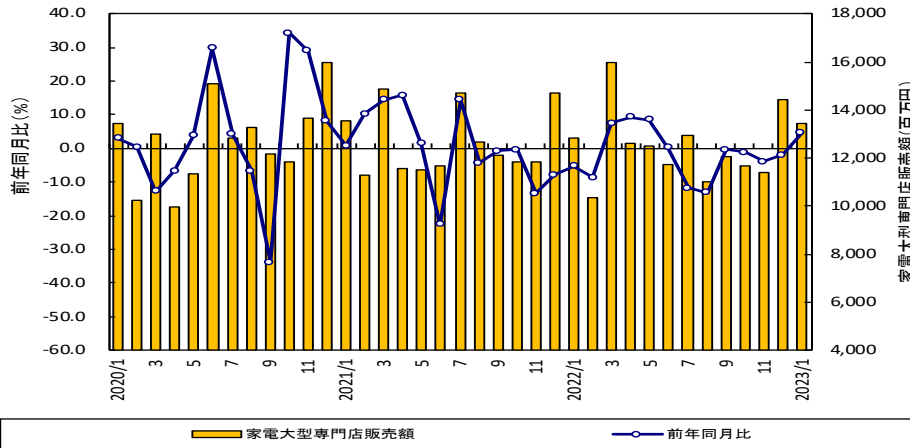
※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

【ヒアリング内容】

- 初売りは好調だった。高級ブランド品などの高額商品は、国内富裕層向けの販売が堅調なほか、インバウンド販売も伸びている。前年は感染拡大期だったほか大雪の影響で客数が減少したため、その反動増もみられた。(百貨店)
- 飲食料品は、値上げの影響もあり売上げが増加した。衣料品は、初売りが好調だったこともあり売上げが前年を上回った。(スーパー)
- 人流が増加していることから、おにぎりや飲料の売上げが好調だった。札幌市中心部や観光地の売上げが引き続き堅調に推移している。(コンビニエンスストア)

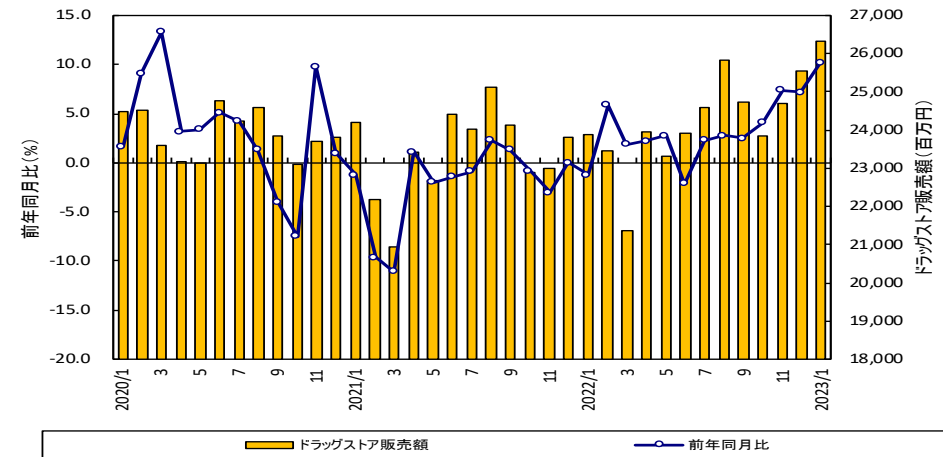
- ・家電大型専門店は、同+4.5%と7か月ぶりに前年を上回った。ドラッグストアは、同+10.2%と7か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同▲1.2%と2か月ぶりに前年を下回った。
- ・新車販売は、同+19.8%と5か月連続で前年を上回った。

家電大型専門店販売額推移



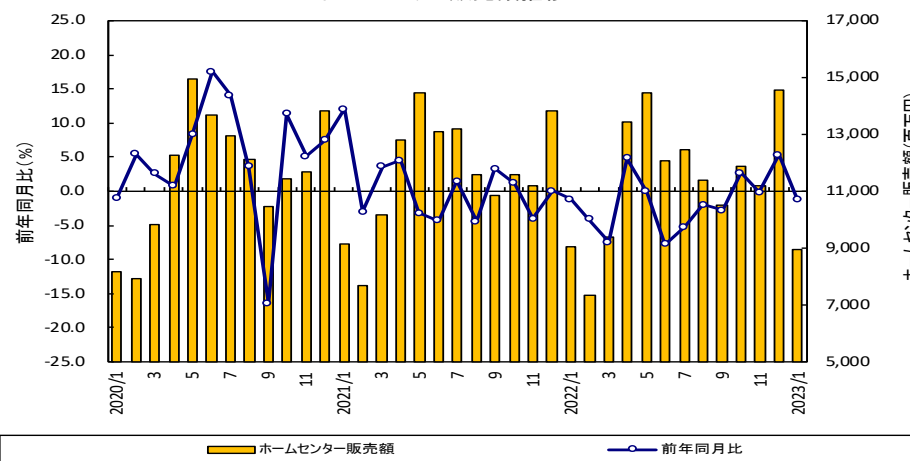
(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額推移



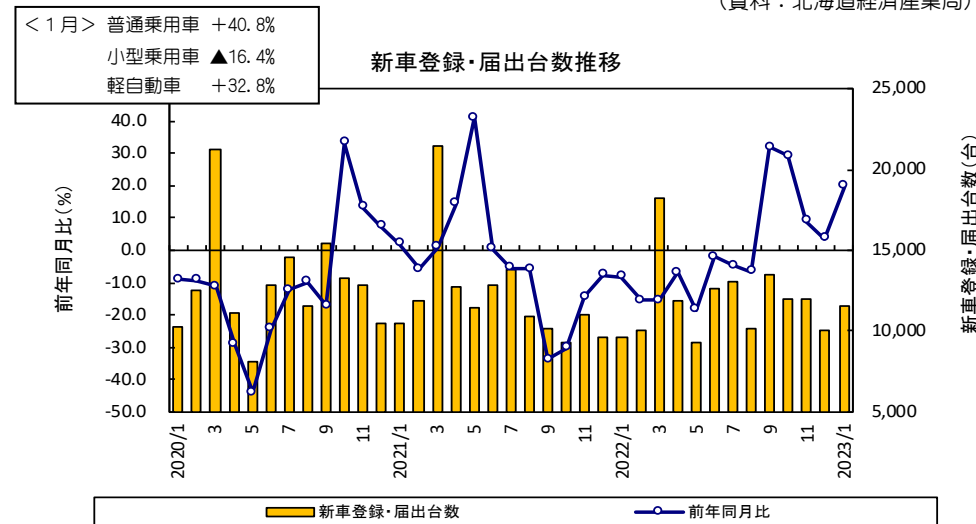
(資料：北海道経済産業局)

ホームセンター販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

新車登録・届出台数推移



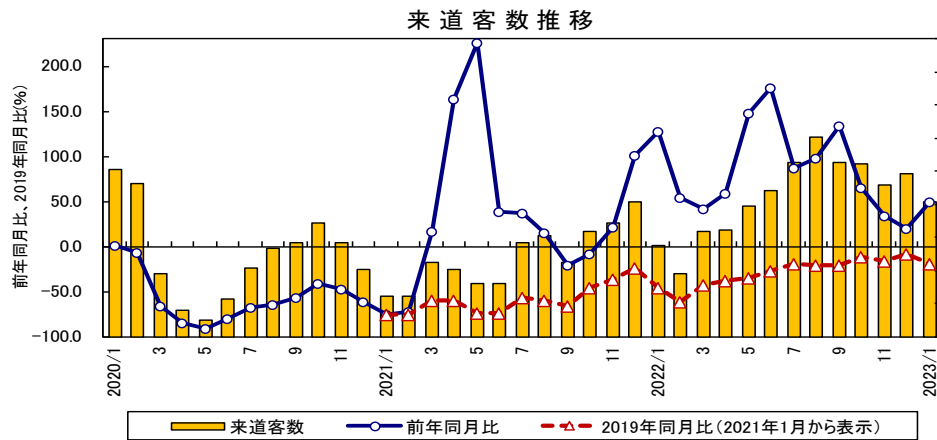
(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

【ヒアリング内容】

- ・電気料金の高騰による節約志向の高まりからか、小型の石油ファンヒーターの売上げが好調だった。(家電大型専門店)
- ・飲食品は値上がりしているほか、買上点数も好調に推移したため売上げが増加した。新規感染者数が高止まりしていたこともあり、風邪薬や解熱鎮痛剤など医薬品の売上げが増加した。インバウンド販売額も回復傾向にある。(ドラッグストア)
- ・除雪用品が、前年大雪の影響でよく売れたことの反動に加え、今年は根雪になる時期が早く、前月のうちによく売れたことから、今月は売上げが前年を下回った。(ホームセンター)

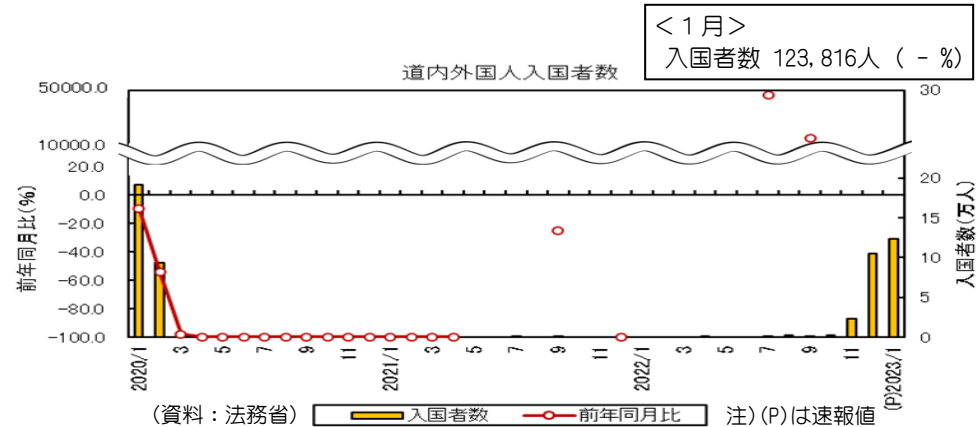
観光 ～ 緩やかに改善している ～

1月の来道客数は、前年同月比+48.9%（2019年同月比▲18.7%）と15か月連続で前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、123,816人であった。



< 1月 > 来道客数 815,927人 (+48.9%)
 ※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

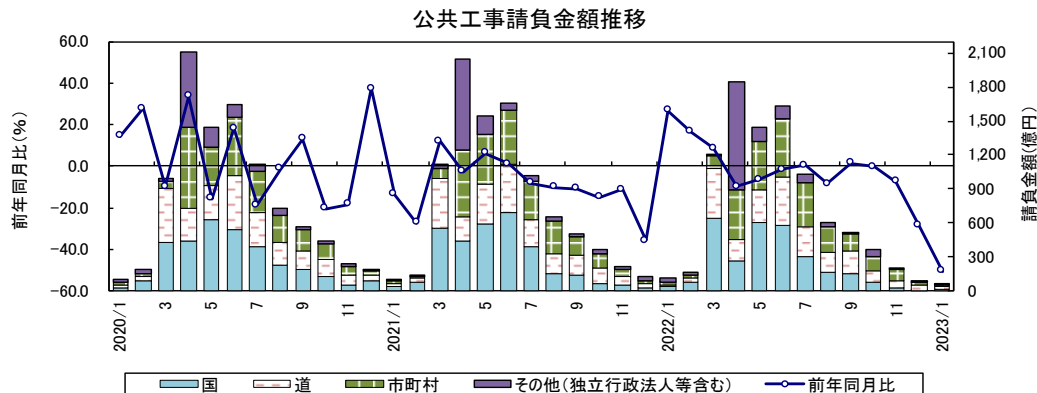


【ヒアリング内容】

- ・1月は好調だった年末年始の反動や全国旅行支援の制度変更等が影響したのか、国内観光客の宿泊が期待ほど伸びない宿泊施設もあった。（業界団体）
- ・1月は春節時期も重なり、韓国、台湾、香港などの団体旅行客が多く、中国からの団体旅行が解禁されていれば、さらに伸びたと思われる。2月は雪まつりなどの冬のイベントも開催され、国内外の観光客で賑わいがあった。（観光協会）

公共工事 ～ 減少した ～

1月の公共工事請負金額は、国、道、市町村の全てで前年を下回り、前年同月比▲50.7%と4か月連続で前年を下回った。



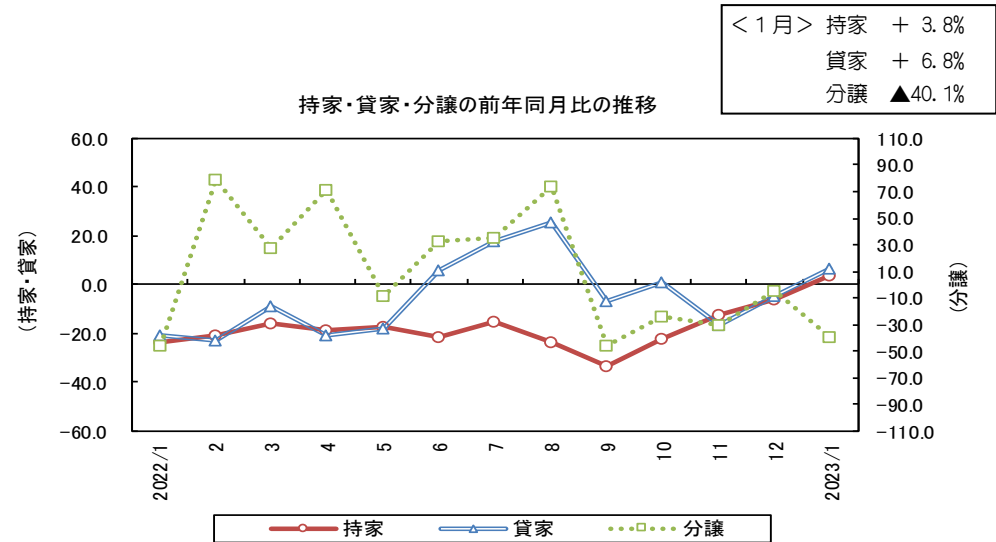
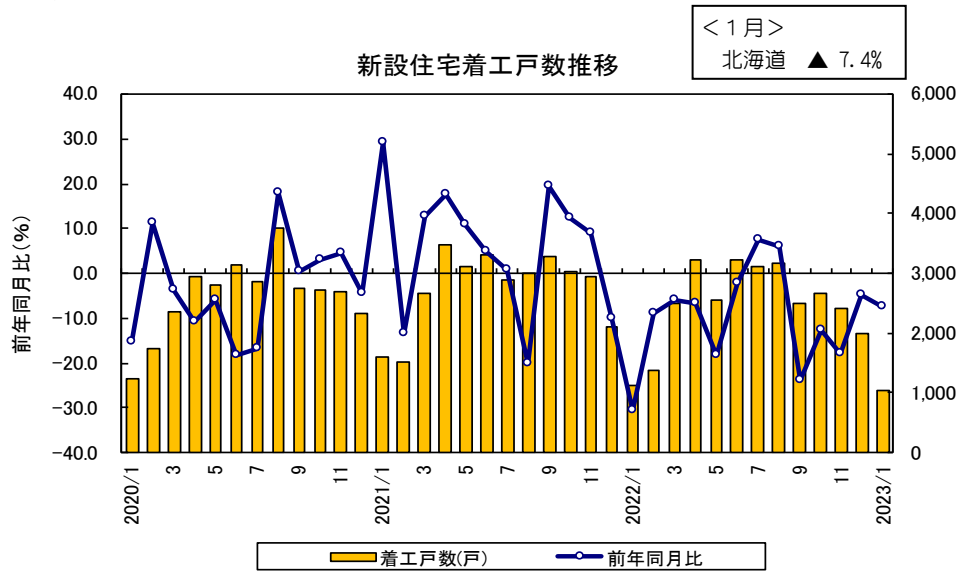
< 1月 >
 北海道 ▲50.7%
 (内訳)
 国 ▲56.8% 道 ▲1.1% 市町村 ▲16.0% その他 ▲87.6%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家は前年を上回ったが、分譲は前年を下回り、前年同月比▲7.4%と5か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2022年度の設備投資計画は、全体で前年度比+12.5%と3年ぶりに前年度を上回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2022年12月14日発表

	2021年度	2022年度
北海道	▲ 5.5%	+ 12.5%
製造業	▲ 37.0%	+ 47.7%
非製造業	+ 13.2%	+ 1.5%
全国	▲ 0.8%	+ 15.1%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2022年12月12日発表

	2021年度	2022年度
全産業	▲ 19.5%	+ 31.0%
製造業	▲ 19.2%	+ 44.3%
非製造業	▲ 19.6%	+ 27.8%

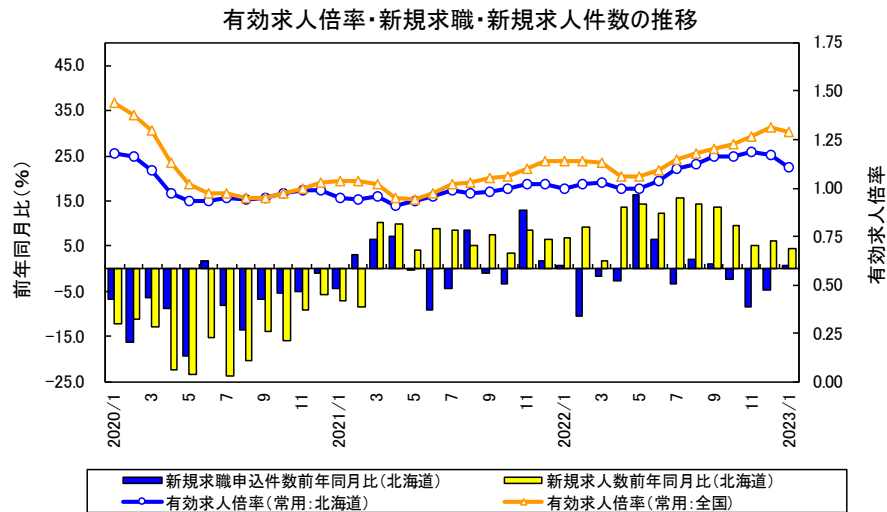
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 緩やかに持ち直しの動きがみられる ～

1月の有効求人倍率は、1.11倍と前年同月差0.11ポイント上昇し、20か月連続で前年を上回った。

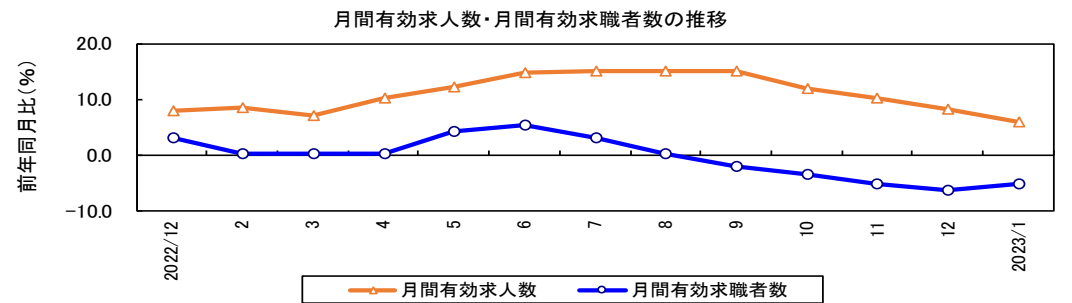


< 1月 >

北海道	有効求人倍率(常用)	1.11倍
	新規求職人数(前年同月比)	+ 4.4%
	新規求職申込件数(前年同月比)	+ 0.7%
全国	有効求人倍率(常用)	1.29倍

< 1月 >

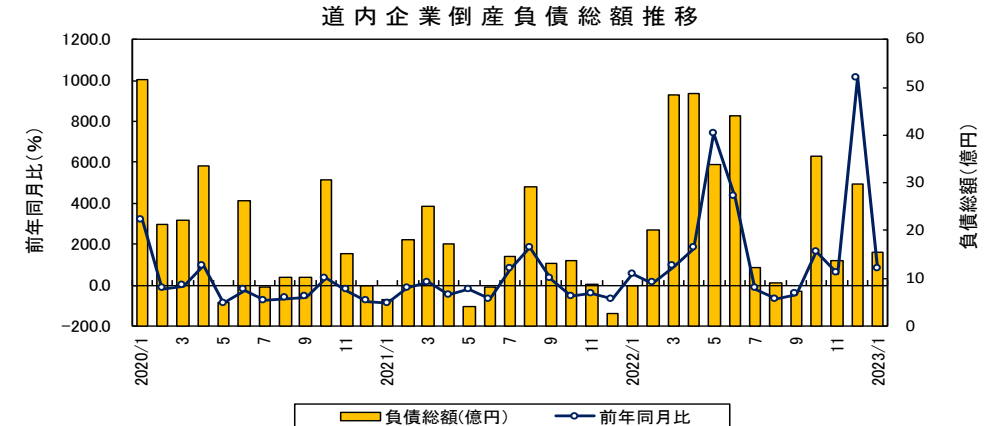
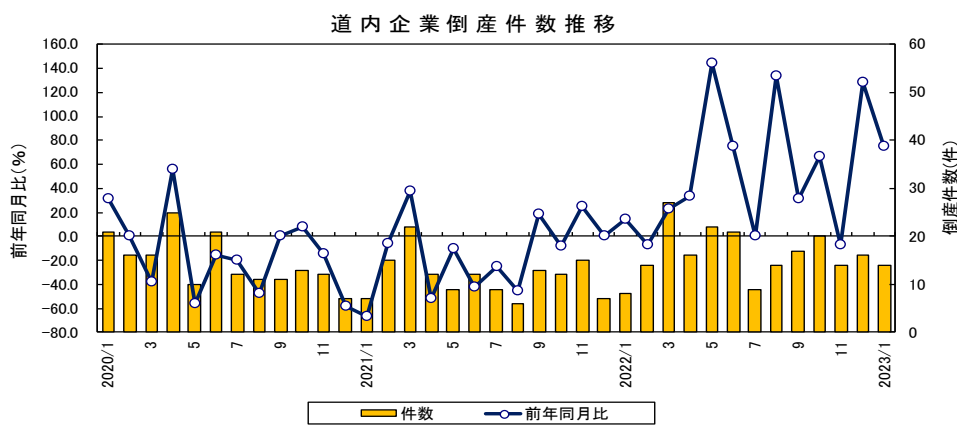
月間有効求職人数(前年同月比)	+ 5.9%
月間有効求職者数(前年同月比)	▲ 5.1%



(資料：厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも増加した ～

1月の倒産件数は14件で、前年同月比+75.0%（6件増）と2か月連続で前年を上回った。また、負債総額は15.5億円で、同+80.2%と4か月連続で前年を上回った。



(資料：(株)東京商工リサーチ)